

強度行動障害者に対する集中支援モデル事業を活用した取り組み ～生活全体を支援する視点から～

障がい者行動支援センター か～む

～ 特集「第9回研究・実践成果発表会」から ～

※発表会については、6～7ページをご覧ください。

■ 障がい者行動支援センターか～むについて

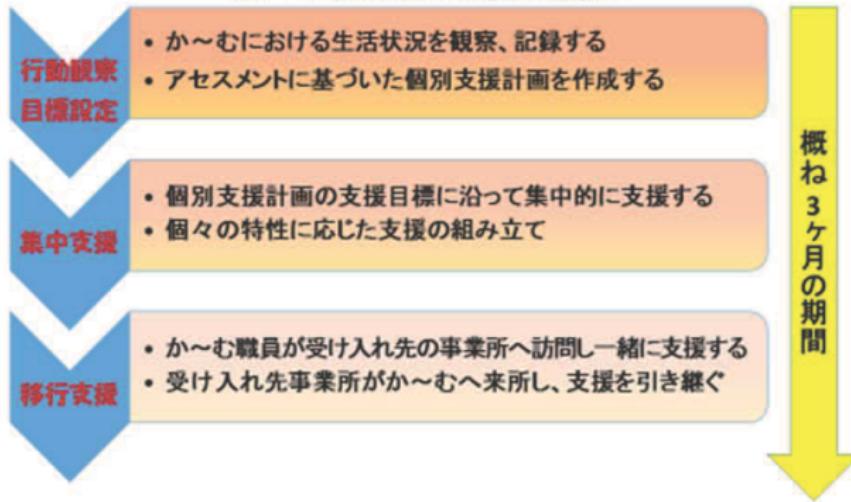
平成27年度に、福岡市強度行動障がい者支援事業の一つとして「障がい者行動支援センターか～む」が開所しました。

か～むでは強度行動障害がある方に対して、24時間体制の支援を3ヶ月間集中的に行い、利用者の障害特性に基づいた支援のあり方を分析、検討、実践するとともに、問題とされる行動の軽減を図っています。

また、支援のあり方を福祉サービス事業所と共有し、福祉サービスの利用機会の拡充を図ることで、地域での安定した生活を支えることを目指しています。

■ か～むでの支援

か～むにおける支援の流れ



作業中と夕食前の余暇時間に壁叩き、机叩き、奇声などの行動問題があったAさんに対しての支援を報告します。Aさんの行動問題を機能分析し、作業中の行動は課題に対する拒否や逃避の機能、夕食前の行動は食事を要求する機能ではないかと仮説を立てました。

また、夕食前の行動問題は食事に対する要求の強さに加え、余暇活動が充実しておらず、時間を持て余した結果、行動問題に至っていると考え、支援を組み立てていきました。

行動問題を整理(午前の作業場面)					
先行条件			行動問題の型		結果条件
状況や環境	活動内容	きっかけ	行動	対応	本人の反応
課題物が多い? 嫌いな課題物がある?	作業 (自立課題)	作業を行う	机を叩く 大声	無反応	作業が中断
行動問題を起こした結果として、作業が中断された →大声や机を叩く行動は、 作業からの逃避の役割 を果たしているのではないかと仮定					
A氏にあった課題量や課題内容を改善することで、行動問題を 起こさなくても済むようにする					
行動問題が軽減する					

行動問題を整理(夕食前の余暇時間)					
先行条件			行動問題の型		結果条件
状況	活動内容	きっかけ	行動	対応	本人の反応
することがない お腹が空いた	余暇	鍵のか かった食 堂がある (職員の注 目なし) (解錠の期 待なし)	壁叩き 頭突き 奇声	無反応	大声や頭突き を続ける (職員の注目 あり) 鍵のかかった 食堂 (解錠を期待 している)
行動問題を起こした結果として、職員が様子伺いに来る。 →大声や机を叩く行動は、 職員の注目 を得る役割を果たしているのではないかと仮定 職員の注目を得て、職員に 食事の要求 をしているのではないかと仮定					
することがある状況を作ることで、行動問題を起こさなくても 済むようにする					
行動問題が軽減する					

■ 支援方法

課題の量や所要時間と行動問題には関連があるのでないかと仮説を立て、課題全体にかかる所要時間、作業回数、課題のセット数を調整し、課題量と行動問題の生起回数を記録し、分析しました。

夕食前の行動問題に対しては、時間を持て余して居室から出てきたところで、散歩やビーズ通し、パズル、体操など、様々な余暇活動を絵カードや实物を見せて提示し、好みの活動がないか探りました。